

科目	心理演習Ⅱ A	単位数	1
担当教員	津田 恭充、櫻井 秀雄		
履修対象	心理科学科3年春学期		
概要と目的	さまざまな臨床心理学的支援技法とコミュニケーション技法を体験的に習得する。		
達成目標	<p>「知識・技能」</p> <p>(1) いくつかの代表的なカウンセリングや心理療法の理論を理解できる。</p> <p>(2) 様々な発達障害や不登校児への発達臨床心理学的支援技法を理解できる。</p> <p>(3) その技法を事例を通じて活用できる。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」</p> <p>(1) 対人援助の実践方法について自ら考え判断できる。</p> <p>(2) 発達や知的能力のアセスメント結果から適切な指導・助言を判断できる。</p> <p>(3) その発達特性に応じた環境調整等の決定をするプロセスを考えられる。</p> <p>(4) 発達障害や不登校児への臨床心理学的支援技法について、総合的に思考・判断できる。</p> <p>「主体性・多様性・協働性」</p> <p>(1) 対人援助に関心を持ち自ら課題に取り組める。</p> <p>(2) グループでの実習やロールプレイなどで仲間と協力できる。</p>		
授業計画			
1	はじめに/授業のオリエンテーション		
2	発達障害（自閉スペクトラム症）および不登校における臨床現場①スクールカウンセリング（櫻井）		
3	発達障害（自閉スペクトラム症）および不登校における臨床現場②児童相談所（櫻井）		
4	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校における発達精神病理（櫻井）		
5	ディスカッション・グループワークを通じた事例検討（発達障害/不登校事例）①アセスメント（櫻井）		
6	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校に対する応用行動分析的支援（櫻井）		
7	発達障害（自閉スペクトラム症）の二次障害としての不登校に対する精神力動的支援（櫻井）		
8	ディスカッション・グループワークを通じた事例検討（発達障害/不登校事例）②支援技法（櫻井）		
9	コミュニケーションワーク（津田）		
10	コミュニケーションワーク（津田）		
11	コミュニケーションワーク（津田）		
12	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化（津田）		
13	活動記録表を用いたセルフモニタリングと行動活性化（津田）		
14	行動実験による苦手なことへの挑戦（津田）		
15	行動実験による苦手なことへの挑戦（津田）		
授業形態/具体的な内容	実習・演習/ディスカッション、グループワーク、ロールプレイ		
教科書			
教科書名	著者名	出版社	金額
プリント配布等。			
参考書	適宜配布するプリントに加え、下記の文献を参考図書とする。 福祉現場における臨床心理学の展開～医学モデルとライフモデルの統合を目指して/袴田俊一・三田英二・櫻井秀雄・西村武・寶田玲子（久美出版）		
成績評価の基準・方法	基準：授業内のロールプレイ、レポート提出、事例を通じたディスカッション・グループワークへの参加がすべてなされていれば合格とし、内容に応じてさらに加点する。 方法：津田は授業内のロールプレイとレポート提出、櫻井は事例を通じたディスカッション・グループワークに関するレポート提出から評価する。		
留意点	ディスカッション・グループワークを通じた事例検討（発達障害/不登校事例）を行う関係上、履修者には個人情報への守秘義務を求める。		
準備学習	予習および復習すべきことを説明するので、それらを各自でノートにまとめて次回の授業に臨むこと。（1.5時間程度）		
備考	担当教員（櫻井）は、子供心身医療研究所、奈良県中央・高田児童相談所および奈良県心身障害者リハビリテーションセンターにて、臨床心理士および心理判定員として臨床心理業務の従事した経験があり、その実務経験を活かして、発達障害や不登校事例を踏まえ、その臨床心理学的支援技法を実践的に習得させる授業を行う。 授業内の課題に対して、その授業内か次回の授業にフィードバックする。 講義テーマ等については、変更や入れ替えの可能性はある。	No.	PY622005